

災害時循環器疾患予防ガイドライン～職域での活用

吉岡 早戸

独立行政法人 国立病院機構 災害医療センター 救命救急センター

災害とは何か? 「人と環境との生態学的な関係における広範な破壊の結果、被災社会がそれと対応するのに非常な努力を要し、非被災地域からの援助を必要とするほどの規模で生じた深刻かつ急激な出来事」と WDEM 理事長であった Prof.Gunn は述べている。医療からみれば、急激な医療の需給のバランスが崩れた状態をいう。

わが国では多くの場合、十分な医療資源の元に診療が行われている。阪神大震災で超急性期の医療の必要性が広く認知され、DMAT (Disaster Medical Assistance Team) が組織され、現在では多くの災害で派遣が行われている。東日本大震災では津波被害による人的被害が多く、超急性期医療だけでなく、今の続く慢性期医療への課題もみえてきた。DMAT は発災から 72 時間を活動目安としているが、実際の避難生活が長期に渡ることは周知である。DMAT は規定の研修を受けたものが対象となるが、未曾有の災害が生じた時に医療者として手を差し伸べたいと思うことは当然であろう。そこで今回は災害時に医療者として知ってほしい疾患について述べる。可及的速やかな治療が必要なものから、避難所で行える治療、そして予防について循環器疾患から述べる(今回は公衆衛生学的見地からの感染症等についてはほとんど述べない)。また、一般医療機関における循環器科専門医のレベルを求めるのではなく、災害現場(超急性期後)において、医療者として知っておいて役に立つであろうことを述べる。

災害時に起こりやすい循環器疾患として、A) 肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症、B) 虚血性心疾患、C) たこつぼ心筋症など専門性が高い疾患から、D) 高血圧、E) 不整脈、F) 心不全などの比較的 common disease が挙げられる。

A) 肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症

多くが 2 週間以内に発症し、危険因子として女性、車中泊、外傷だけでなくトイレの我慢が挙げられている。臨床症状だけでなく、簡易エコーが診断には非

常に有効である。また、すでに発症している場合の予防策は禁忌になることを忘れてはいけない。

B) 虚血性心疾患

発生率は数週間増加する。迅速な対応は当然であるが、未然に防ぐことが大切である。服薬の継続などを促す。また、循環器リスクスコア AFHCHDC7 Score4 点以上は高リスク群となるため、予防スコア SEDWITMP8 Score6 点以上を目指す。

C) たこつぼ心筋症

発災直後から 1 週間が最も多い。一般的に予後良好とされているが、重篤な転帰を辿ることもあり、急性冠症候群と同様に扱うべきである。

D) 高血圧

災害高血圧は循環器疾患のリスクであり、災害ストレスの影響を知る指標ともなる。メタボリックシンドロームや慢性腎臓病、高齢者などはハイリスク群であり生活習慣の改善・維持、減塩が重要である。血圧レベルは 140mmHg 未満を最終目標とする。

E) 不整脈

特に心房細動は脳血栓塞栓症を発症するリスクが高くなる。CHADS2 による脳卒中リスク評価を用い、抗血栓療法導入を検討するべきである。災害時には脱水による腎機能低下により薬剤の血中濃度が上昇するため、コントロールにより注意を払う必要がある。

F) 心不全

災害時における心不全は、震災ストレスによる交感神経活性化による高血圧や心房細動を合併するものが多い。問診を通じた心不全症状の有無、呼吸音の聴取や浮腫の有無など心不全徴候を見逃さないことが重要である。

被災地は超急性期から中長期の医療支援、慢性疾患への対応、保健衛生問題など直面する課題が刻々と変化する。我々医療者はその専門性を生かすべく、平時より準備しておく必要があり、本セッションがその一助となれば幸いである。

座長略歴

諸岡 信裕 (もろおか のぶひろ)
医療法人白帆会 小川南病院院長
昭和 23 年 那珂郡瓜連町(現那珂市)生まれ
昭和 41 年 県立水戸一高卒業
昭和 48 年 金沢大学医学部卒業
昭和 48 年 千葉大学病循環器内科医員
昭和 59 年 同助手
平成 元年 同講師兼医局長
平成 5 年 小川南病院院長
平成 12 年 茨城県医師会理事
平成 14 年 同常任理事

平成 18 年 東茨城郡医師会会長
平成 20 年 茨城県医師会副会長
平成 20 年 日本医師会代議員
平成 25 年 茨城県公安委員会委員
平成 27 年 茨城県病院協会会長
平成 28 年 茨城県医師会会長
医学博士
医師、介護支援専門員、認定産業医、認知症サポート医
茨城県医療審議会委員、茨城県薬事審議会委員、いばらき高齢者プラン 21 策定委員会委員長、茨城県社会福祉協議会評議員、茨城県地域包括ケアシステム策定委員会委員長 他

演者略歴

吉岡 早戸 (よしおか はやと)
2000 年 東京慈恵会医科大学医学部医学科卒業
2000 年 国立病院東京災害医療センター(現災害医療センター)臨床研修医
2007 年 東京慈恵会医科大学大学院社会医学系博士課程終了(医学博士受領)
2008 年 国立病院機構災害医療センター救命救急センター医員
2013 年～2014 年 メリーランド州立大学ボルチモア校訪問研究員
2015 年 国立病院機構災害医療センター救命救急センター医長・副 ER 部長

【専門分野】 救急医学、公衆衛生学、中毒学、災害医学、危機管理
【資格】 医学博士、日本救急医学会専門医、日本公衆衛生学会専門家、日本医師会産業医、日本 DMAT 隊員(統括 DMAT 資格者)、東京 DMAT 隊員(インストラクター)
【主な所属学会・役職】
日本産業衛生学会(代議員)、日本公衆衛生学会、日本衛生学会(評議員)、日本救急医学会、日本臨床救急医学会(評議員)、日本中毒学会(評議員)